

公園をみる・観る

= 珍事、深溝の里でナベツル越冬？ =

公園はこの時期、木の実がいっぱい実っている。園路を歩くとどの木にも豊かな秋の実りがトリたちの食欲を充たしている。今年は、11月になっても気温が高めで天気のいい日などは、まさにインディアンサマー（小春日和）と呼ぶにふさわしい穏やかな風景を見せている。例年来るべき冬の厳しさを予測させる寒風の吹くこの時期、今年はどうしたことかと不思議がったり、案じたりしていたが、11月下旬になろうとするある日、公園近くの深溝地区にナベツルの群れが降り立っていると聞いた。「ビックリポンやわ。毎年ナベツルはんたちの飛来を首を長ごうして待ってはる八代の人たちの願いを袖にして深溝地区へ移住しはったんかいなあ」と某TVの朝の連続ドラマの主人公を口真似しながらも、これは珍事、今回は特別「ナベツルをみる・観る」に変更させてもらおうと早速、ナベツル観察へと出かけた。

保護鳥のため規制されているので至近距離には近づけない。県道212号線の交通の邪魔にならないような待機箇所に車を止めてもらい双眼鏡で覗くと、刈り取りが終わった田圃が広がるはるか彼方に、いるいる、いるいる。黒い羽のツルの一群を確認できた。数えてみると28羽くらいと思ったが同行の園長には32羽以上に見えたとのこと。11月18日には48羽が確認されたという。ナベツルはツル目ツル科ツル属で中華人民共和国やロシア、モンゴルあたりから毎年越冬のため南下して来る。鹿児島県出水水平野は有名で世界のナベツルの90%が越冬するそうだ。周南市八代にも筆者が子どものころはたくさん越冬していて見に行ったこともあるが年々飛来数が減少してきた。今年は10月末に一家族（成長2羽、幼鳥1羽）が飛来したと聞く。ところで、いまこの双眼鏡の中のナベツルたちは今後どうするのだろうか。このままこの地で冬を過ごすの？ それともどこかに飛び去るの？ 期待と好奇心の入り混じった質問に「天気のよい日に繁殖地を飛び立った彼らが思わぬ悪天候に遭遇し、いっとき避難のためここに寄り道しただけだから、近いうちにどこか適当な越冬地へ行ってしまおう」と園長のにべもない言葉。要するにこのナベツルたちは天気が良からと出かけたが、途中、雨に降られたから雨宿りして天気が持ち直したら先に行くということらしい。そう言えば2・3日前雨が続けていたなあと納得しながらも、この地でナベツルが越冬してくれるようになったら嬉しいかもと思うエゴな心も湧き上がるナベツル観察となった。園長の観察どおり11月23日彼らは当地を飛び立ち西へ向かった。

（土×土）

